

令和 元 年 8 月 15 日

日本学術会議会長 殿

第 二 部 部 長 石川冬木
「認知症に関する包括的委員会」委員長 宝金清博

日本学術会議主催学術フォーラム企画案募集について（回答）

令和 元年 7 月 1 日付府日学第 322 号をもって依頼のありました標記について、下記のとおり回答します。

記

1 フォーラムのテーマ 認知症---予防と共生に向けて学術の取り組み

2 企画趣旨

少子高齢化の課題は、日本社会が直面する最大の課題であり、学術を含めた社会の基盤に関わる問題である。この少子高齢化は様々な問題を惹起するが、最大の問題は、認知障害を持つ人口比率の急激な増加である。

認知症、あるいは、軽度認知障害（MCI, Mild Cognitive Impairment）の増加は、社会や学術への好影響は想定しにくい。一方、少子高齢化の先頭に立つ日本の取り組みは、世界の課題解決にとって極めて大きな意味を持つ。また、認知症との共生と予防への取り組みは、多様な価値観と生き方の共生を目指す次世代の日本社会にとって、重要な方向性を示すことが期待できる。

これは行政だけの課題ではなく、学術組織が総力をあげて立ち向かうべき重大な課題である。この点は、日本の展望 2020 においても、強調されるべき点である。「認知症の治療開発」は言うまでもなく重要であるが、時間のかかる非常に困難な課題であり、近未来的には、認知症との「共生」と「予防」に注力すべきである。

認知症、MCI の課題に対する学術の取り組みは以下の 4 つの視点から考えられる。

- 1) MCI に対する医学・健康科学からの予防的アプローチの視点
- 2) 認知症との共生を支える技術支援・開発（環境・都市工学なども含めて）の視点

- 3) 認知症との共生を実現するための人文科学の視点（教育、人権、法制度など）
- 4) 認知症の予防と共生の持続的発展のための財務基盤、医療経済的視点

これら4つの視点は、明らかに、日本学術会議の全ての領域が横断的関わるべきものである。しかも、議論に十分な時間をかけられない喫緊の課題であり、日本の学術の総力を挙げた即時性の高い対応が求められている。

今回、「認知症—予防と共生に向けた学術の取り組み」をテーマとして、学術フォーラムを開催し、上記の観点から日本学術会議の関係者の取り組みを紹介し、国民と情報共有する場を提供したい。

3 希望開催時期 令和 2 年 1 月頃（平日開催）

4 コーディネーター 宝金清博（第二部会員）

5 演題・演者等（予定、交渉中のものも含む。）

- * 認知症と社会制度・佐藤岩夫（第一部会員）
- * 認知症を診る・遠藤玉夫（第二部会員）
- * Society 5.0 が支える認知障害・萩田紀博（第三部会員）
- * 認知症と生きる社会・白澤政和（連携会員）

（次第）概要（仮案）

13:00～13:10 10分

【開会挨拶】日本学術会議（会長または副会長に依頼）

13:10～13:20

【キーノートレクチャー】10分

宝金清博（第二部会員、コーディネーター）認知症と生きる社会と「学術」

13:20～15:20

【講演（上記予定演題）】各30分 計120分

座長 平井みどり（第二部会員）、山脇成人（第二部会員）

- * 認知症と社会制度・佐藤岩夫（第一部会員）
- * 認知症を診る・遠藤玉夫（第二部会員）
- * Society 5.0 が支える認知障害・萩田紀博（第三部会員）
- * 認知症と生きる社会・白澤政和（連携会員）

15:20～15:30

【休憩】

15:30-16:30

【パネルディスカッション】 60分

座長 石川冬木（第二部部長）、小松浩子（第二部会員）

*上記演者

*厚労省オレンジプラン担当者

16:30-16:40

【閉会挨拶】 10分

日本学術会議（会長または副会長に依頼）

6 関係部の承認の有無 第二部で承認済

7 その他希望事項（開催場所等） 日本学術会議（東京）での開催希望

- ・経費負担の要否 要
- ・当日の担当職員の補助の要否 要
- ・当日の委員会等の開催予定の有無 有

- 注) 1 企画案の提出に当たっては、上記1～7の項目をできるだけ詳細に記入してください。特に講演を企画するに至った企画趣旨は必ず記入してください。
記入漏れのある場合は、書類不備扱いとなり、審議されない場合があります。
- 2 演題・演者が未定の場合には、分野だけでも記入してください。